

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400967		
法人名	有限会社 楽舎		
事業所名	認知症高齢者グループホーム宇賀の杜 楽舎 ①		
所在地	島根県出雲市宇賀町23-1		
自己評価作成日	令和4年11月2日	評価結果市町村受理日	令和5年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和4年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宇賀の杜楽舎の「入居者の方と生活を共にし、暮らしを支え命を護る」「一瞬の笑顔を求めて・・・」の理念が実践できるように日々取り組んでおります。継続して、新型コロナウイルスの影響により外出や地域交流、社会参加は縮小された状況ではありますが、支援目標の「自分の足で百歳まで歩こう(立つぞ!)」を掲げ、下肢筋力UPの運動やレクリエーション、楽舎ミニ運動会など室内でも活発に動きのある生活が提供できる様に支援しております。毎月「フルーツデイ」を計画し、旬のフルーツを提供することで思い出話や笑顔の溢れるひと時となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日本海から少し入った自然豊かな平坦な場所に位置し、窓からは田園風景が目に入る。開所から17年が経過し地域でも歴史のある施設で、同敷地内に認知症のデイサービスと1ユニットのグループホームがある。開所当時に掲げた理念を継続し、入所者、職員共に毎年個々に目標を掲げ日々の生活に繋がられるよう施設長を中心にした動きが感じられる。グループホームごとの支援目標にも職員の思いが現れており、コロナ禍で動きに制限がある中でもなんとか笑顔が見られるように考えられている。今年は豪雨の為に緊急避難を経験しており、デイサービスと連携した車での移動や、新型コロナウイルス感染症の対策を取りながら避難など今後に大いに役立つことと期待する。コロナ禍の為に職員体制が不十分な時期もあったようだが、理念への思いと職員同士の信頼関係やチームワークで乗り切っていたきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの研修時説明し、楽舎の理念の成り立ちを話している。毎月の理念もスタッフで考え、毎日楽舎理念と共に唱和し、スタッフは理念の共有が出来ている。	開所時からの理念を継続。思いの共有の為、年度初めに施設長の掲げるテーマに沿って個人目標を作成している。新規の職員には1対1で関わりながら、考え方を伝えるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為交流が難しいが、小学校の卒業式に入居者様手作りプレゼントを渡し、郵便局へは、毎月季節の作品を掲示させてもらっており、コミセン便りを届けてもらい、生け花、修繕ボランティアさんも続けている。	コミセン活動や小学校の運動会や卒業式等の行事参加と交流も盛んだったが、ここ数年はコロナ禍の為難しい状況。プレゼントを渡したり、手紙のやりとり、音楽会のDVDを見せてもらうなど限られてはいるが交流を続けている。施設の新聞も地域に配布するなど発信も続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、発信の場がないが楽舎新聞を送付している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議はご家族様不参加ではあるが、テーマを元にした資料を送付し、アンケートを活用して意見交換している。	コロナ禍の為書面会議として定期に行っている。入居者の身体状況やコロナ禍での施設の取り組み等を伝え意見をj得ている。家族やコミセンやボランティアの代表者、行政関係者に送り得られた意見をサービス向上に繋げるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて、現状報告し意見交換している。	運営推進会議には参加があり専門的な意見をj得ている。包括とは入所の問い合わせや困難事例の相談で関わり、生活保護担当課とは半年に1回訪問を受け情報交換を行い、いい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について全スタッフ、正しく理解しケアしている。研修したり安全面から、どうしても必要な場合は3か月に1回の身体拘束廃止委員会で検討し、出来る限り拘束をしない取り組みをしている。10月にも身体拘束の研修にて意見交換している。	身体拘束廃止委員会を定期に開催。外部研修への参加や3施設合同での研修も行っていたが、コロナ禍となり各ユニットごとで担当を決め実施している。現状の内容確認や今後グレーゾーンになる可能性のあるケースなど幅広く検討するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を行い、学んでいる。日頃から、スタッフ同士声に出し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内部研修の際に、権利擁護についての研修を行っている。権利擁護推進員も事業所において、日々学ぶ機会を設け話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書、書面等を確認しながら十分に説明を行っている。特に退居、事故の際の留意点、料金については細やかに説明し納得して頂き入居して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様には日々要望を聞きながら支援を行い、ご家族様にも来援時、電話、メールなど活用し意見・要望を頂き取り組みや、状況をまとめ運営推進会議の際に報告。外部からの意見も頂き運営に反映している。	年に1回家族会を行っていたがコロナ禍で中止。家族には日頃の様子を伝えるおたよりを担当が書き、写真を添えて送り意見を得る機会としている。体調面の変化は電話で伝えたり、書面やメール等を利用するなど家族に合わせて伝えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時に意見交換や提案、検討会を行っている。月に1回の内部研修においても、事案、業務、企画を話し合う機会を設けている。	個人目標を作成しており年度末には個人面談の機会を設けている。毎日の申し送りや会議や研修の場で話をする時間を作っており、内容に合わせて各ユニットリーダーから管理者へ繋がるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や役職のあるスタッフは資格手当、役職手当が付き、給料が上がる仕組みとなっている。実践・リーダー研修への参加を勧め修了者には手当をつけ、昇格へ反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の内部研修はスタッフが担当者となり、テーマに沿って研修を行っている。外部の研修へも参加し、内容を周知し共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の影響もあり、交流会や研修の場への参加は減少しているが、インターネットや広告誌などから同業者の取り組みや活動を参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してすぐはご本人様と関わりを多く持つようにし、困っている事や、不安な事が少しでも軽減するよう関係作りに努めている。問題や困った事が起きたら都度スタッフで検討するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族様の希望、要望をしっかりと聞き、少しでも安心して頂けるよう信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の心身の状態の段階に合わせて、必要な支援を検討して職員全体で話し合い、ご家族様やかかりつけ医とも連携して、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る、出来ないを把握し、得意な事を役割として活躍の場を提供、自信となるよう支援している。「ありがとうございます」の言葉を必ずかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お手紙やハガキの支援でご家族様に様子をお知らせするとともにケアプラン等の要望を聞き、共に支援できるようにしている。絵葉書の返事が届くと入居者様も喜んでおられる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで生活してこられた地域が近い方同士を近くの席にしてもらい、共通の話が出来るよう工夫している。仲の良かった友人と手紙や電話でやり取りもして頂いている。	コロナ禍で面会は難しいが電話を多く取り次いだり、はがきや手紙等でのやり取りの機会を多めに持つようにしている。職員と一緒にぬり絵をして、文章を書き添えて送るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い方同士、座席の位置を考えて配慮している。耳が遠かったり、理解が困難な方などスタッフが間に入りコミュニケーションの橋渡しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてもご家族様より、様子などをお手紙などでお知らせ頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や意向をお聞きし、新聞、お猿さん作り(裁縫)塗り絵など、趣味や生活習慣を大切に支援している。	普段の関わりの中で言われることをスタッフで持ち寄り話し合うようにしている。家に帰りたいとの思いが一番なので、自分の足で歩くことを目標にし、歩け歩け運動に繋げている。	より充実した個別援助計画になるよう検討いただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、ご家族様より生活歴など聞き取りを行っている。デイサービスから入所の方は、デイサービスのスタッフより情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録(カルテ)や身体状況の表に記録し、一目で分かる様にしてある。毎日の申し送りでもスタッフ間で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時ご家族様の要望をお聞きし、ケアプランへ反映している。入居者様の意見、要望もお聞きしケアプランの目標としている。	日々の記録にプランの評価を記入し、3か月に1回モニタリングをまとめている。コロナ禍で担当者会議の開催は難しいが短時間の面会時にできるだけ実施するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録でケアプランの評価が毎日出来るように連動で作ってある。入居者様の変化や気づきがあれば、いろんなこと検討会にて提案、スタッフ間で情報提供し、ケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療受診などご家族様対応であるが、急な受診や遠方の方等その時の状況に応じてスタッフが付き添い、柔軟に対応している。ヘルパー対応も可。かかりつけ医、医療連携NS、24時間オンコールで連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、外部との直接的な交流は一時的に中止している。修繕ボランティアの方に衣類等の修繕をお願いしたり、作品を地域の郵便局に飾らせてもらっている。ご家族様や知人への絵手紙の交流も続けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の24時間の受け入れ体制がとれている。体調の変化があれば都度報告し、指示をもらっている。2週間に1回の訪問診療もある。	以前のかかりつけ医を続けることも、協力医に変更することも可能になっているが、大半の方は入所時に往診や緊急時の対応が可能な協力医への変更を希望されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は体調の変化等あれば身体状況表に記載することと合わせて、看護師への報告を行い指示を仰いでいる。24時間オンコールの対応する看護師を配置している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはカンファレンスを実施し、医療機関への情報提供と情報共有を行う事で、ご家族様、ご本人様が安心して治療を受け入れる体制がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化や、終末期における対応について説明をしている。状態に変化があれば、都度報告説明をし、状況に応じた最大限できる支援を行っている。	現在看取り対応は行っていないが、重度に向けては病院との連携はとれており、介護度の変更に対しても特老への申し込みについて説明するなど、その都度話し合いの機会を持ち進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルシートと119シートを作成し、1人1人の日頃のバイタル値や病歴等を把握確認している。また、救急対応と合わせてAEDの使用についての研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を年2回実施している。水害・土砂・原発事故の避難マニュアルも作成し、連絡網は地域やコミセンとの連携がとれるようにしてある。避難アセスメントはホールに張り出し、職員が把握できるようにしてある。	定期の訓練を昼と夜の想定で警備会社の協力で実施。今年は、施設前の小高い場所にあるため池が氾濫する危険性が出たため、一晩避難場所への避難を経験。移動、必要物品、新型コロナウイルス感染症の対応等、今回の経験を今後につなげる意向。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けを心掛け、否定しない言葉かけをしている。排泄の声掛けは他者の前で大声でしないようにして、入浴時は暖簾やバスタオルをかけて他人の目に触れない様羞恥心に配慮している。	入居者が落ち着かない場合や職員側に余裕がない時など声がけが乱れることがあるので、お互い気をつけるように話している。虐待、身体拘束、接遇等の研修時にも検討するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	作品作りでの色選びや、レクで歌う歌のリクエストを聞いたり、何が食べたいか、リクエストメニューを聞いたり自己決定の機会になるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおまかな流れはあるが、個々にお部屋で裁縫をしたい方、新聞を読みたい方、ホールでずっと過ごしたい方などその人に合ったペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月移動美容室の利用や、洋服の好み等把握して用意、支援している。男性は毎朝髭剃りの支援、女性は眉を書いて差し上げたり、乳液、ヘアクリームなどご本人の希望を大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の為、一緒に準備、片付けは難しいが、火を通す物は野菜を切ってもらったり、月に1回季節のフルーツデーや行事・誕生日メニューを楽しんで頂いている。	コロナ禍の為、以前のような関わりは難しいができる作業を手伝ってもらっている。買い物に行きメニューを決め担当が調理を行っている。おかずのみ外注を利用することもあるが、フルーツの日を設けるなど食を楽しめるよう考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や飲むタイミング、湯温、お皿の大きさや色など食べやすいよう工夫し調整している。メニューノートや身体状況の表に食事量や水分量を記録し申し送りをし脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず、口腔ケアを行っている。出来る方はお声かけで、不十分な方はスタッフで磨き直し支援している。夜間はポリドント洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定時のトイレ誘導や個々に合わせた紙パンツ・パットを使用している。	紙パンツ等に排尿する方もあるが、個々に合わせた対応で、できるだけ不快に感じないように失敗が少なくなるよう支援している。認知が進み頻回にトイレに行く方があり対応を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取を多くして頂いている。他、便秘になりかけている方には冷たい牛乳を朝飲んで頂くなどの予防にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の好みによってお湯の温度や、入る時間など体調を見ながら調整している。声掛けで入浴される方が多いが皆さん喜ばれている。	家庭用の浴槽で、重度で車イスの方は出入りが難しいためシャワー浴対応になっている。以前は夜入浴を希望する方に対応していたが今はしていない。2日に1回のペースで入れるよう声かけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気温や湿度に注意し、寝具も清潔を保っている。快適に休めるようエアコンを使って空調管理を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事の確認を行った上で、本人様の前で日付、名前、服薬時を読み上げ、間違いのないようにしている。薬の変更があった時は様子を観察し記録している。週1回薬剤師より、説明を受けて把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事、得意な事(貼り絵、洗濯干し・たみなど)を把握してやりがいを感じて頂き、行事を取り入れて楽しみ、喜びを感じて頂くよう支援している。新聞を購読している方や日記をつけている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で自由な外出は難しいが、短時間のドライブ外出、庭の散歩、日光浴を取り入れ、季節を感じ外からの刺激を受けて頂けるよう支援している。	度々出かけることは今は難しいが、少人数でドライブに出て、あまり車から降りないようにしている。敷地内が広い為、お風呂の無い日には施設周辺を散歩するようにして気分転換に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍以前は買い物支援で、外出行事を計画し、好きな物を選んで買っていたが、現在は感染症の感染リスクを考慮して行っていない。入居者様の希望された物をスタッフが代わりに買物している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様との関係が希薄にならないよう、毎月ハガキ、手紙、時には電話支援を行っている。代筆が必要な場合はご本人の思いをお聞きしている。お返事が届くこと喜ばれる。毎月お手紙と共に写真も送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除や換気、消毒等快適に過ごして頂けるよう努めている。季節感のある壁絵を貼ったり、お花を飾ったりしている。日中は日差しが入るようにし、自然の変化が分かるよう工夫している。	玄関を中央に2つのユニットが左右対称に建っており、廊下を挟んで両側が居室になっている。掃き出しの窓でどこからも外の景色がよく見え季節を感じることができる。ダイルームには干支や季節に合わせた風景など手作業の作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは気の合った方同士、話好きの方等、場の雰囲気を考え、配席している。廊下の畳ベンチやソファは独りになれたり、休息できるスペースとなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや寝具、ご家族様の写真等自宅にいる雰囲気作りに努めている。入居者様の個々の状態や状況に合わせた環境作りをしている。	思い入れのある物の持ち込みを勧めているが、多くを持参されないケースも多い。災害時等で避難の観点からも、移動しやすいよう動線を確保するようにしている。壁に作品や写真を貼り落ち着けるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかる事に関しては赤字・赤テープで注意を促し、掲示物を目線の位置に貼り、誘導している。出来ることに関しては歩行器、杖等、個々の身体能力に合わせ安全な動線の確保に努めている。		